

## ラブストーリー映画における水中シーンが視聴者に与える影響

渋下 恵

本研究の目的は、ラブストーリー映画において、水中シーンが視聴者の感情にどのような影響を及ぼすのかを印象評価により明らかにすることである。近年、インターネットにおける動画サイトの普及により、映画業界は赤字に陥っている。その中でも、ラブストーリー映画の興行が低迷している。それでは、どのようなラブストーリー映画が視聴者の関心を引くことが出来るのだろうか。本研究では、視聴者を惹き付ける一つの効果的な要素として、水中シーンに注目した。

先行研究により、水のイメージが正負両極の二義性を持つことや、人々の想像力を引き出し、膨らませることが明らかとなっている。しかし、これらは神話などに見られる概念的要素からの分析や、文献内での記述や建築空間などの物理的要素からの分析であり、映像や水中を扱った研究ではない。そこで本研究では、水のイメージが与える感情への強い影響が水中シーンにおいても同様であるとの仮説を立て、これを検証するために被験者実験を行った。

まず、1967～2015年に公開された水中シーンを含むラブストーリー映画を38本選定した。そして、これらの水中シーンを長さや本編における位置といった基本的な情報と、人物や音などの内容的な情報の13項目において分析し、A～Fの6つに分類した。

予備実験として、A～Fの中からそれぞれ無作為に1つずつ映画を選び、計6つの水中シーンのみの映像を対象として、多面的感情状態尺度短縮版を使用した印象評価アンケートを用いた被験者実験を行った。その結果、水中シーンに登場する人物が恋人関係にある男女2人であり、かつ内容が明るい分類Eが最も視聴者に影響を与えることが明らかとなった。このことから、分類Eを使用し、本実験を行った。

本実験では、分類Eの中から選別した『2つ目の窓』、『テイク・ディス・ワルツ』、『ルビー・スパークス』の3つの映画において、要素の類似した地上シーンと水中シーンをそれぞれ1つずつ抽出し、計6つの映像を用いて印象評価実験を行った。実験には、先行研究により明らかにされた水のイメージを参考にし、12個の感情因子を計測するアンケートを用いた。

その結果、地上シーンに比べ、水中シーンの方がより強く感情を変化させることが明らかとなった。また、地上シーンは静的なイメージを与えるのに対し、水中シーンは動的なイメージを与え、さらに感情的にだけでなく感覚的にも訴えかけることがわかった。この感情の揺らぎは、視聴者への印象度合いの強さへとつながると推測される。さらに水中シーンは、地上シーンでは感じられなかった非日常性を視聴者に与えることが明らかとなった。一方、水のイメージが持つ「穏やかさ」は地上シーンでより強く感じられることが明らかとなった。

(指導教員 真栄城哲也)